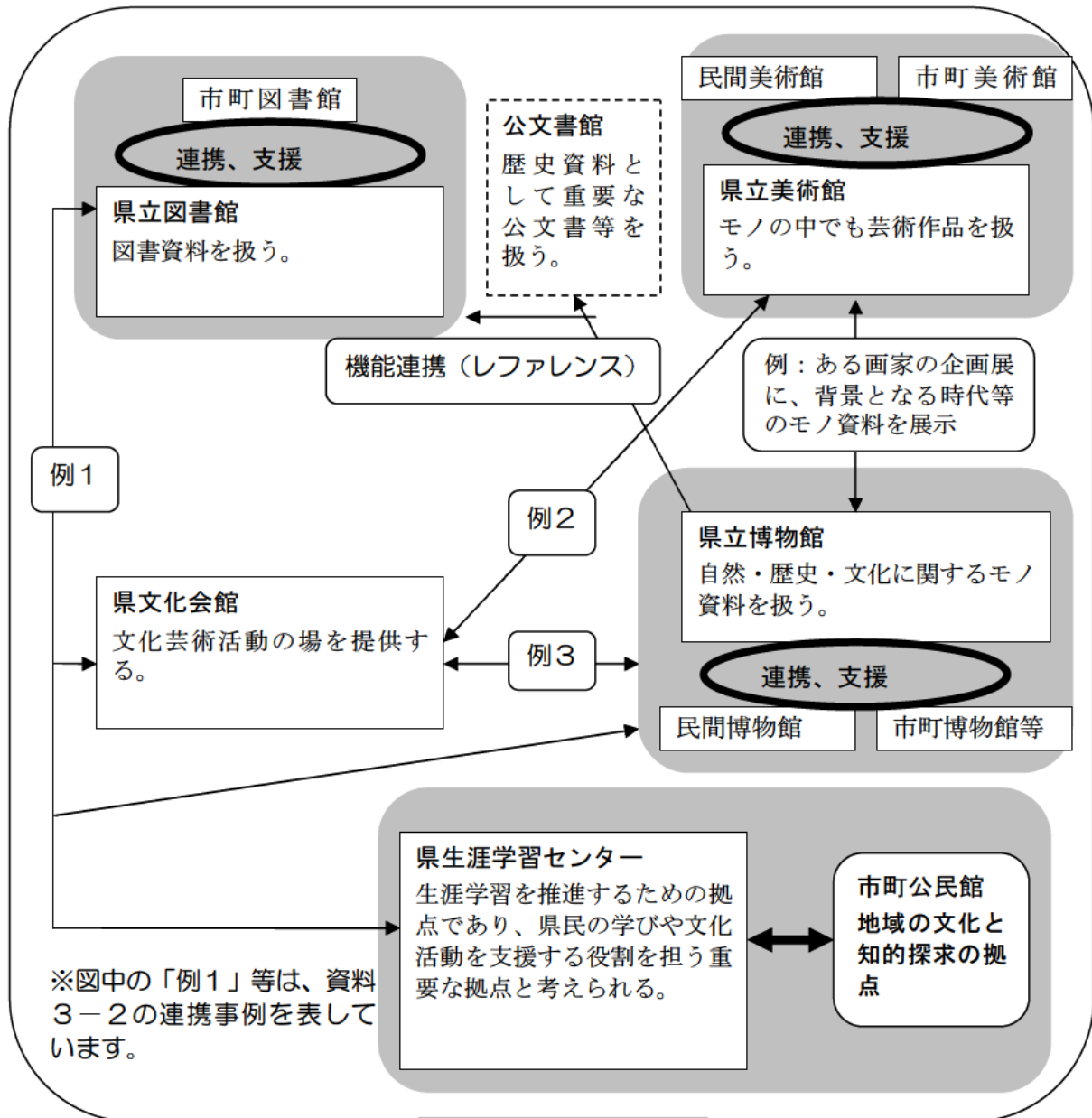


(主に県が設置する) 文化と知的探求の拠点の機能充実について



連携による効果

例1 子どもたちが、動物のモノ資料を中心に、書籍、映像から実物とそれに関する知識、本物を想像するなど、総合的に動物について知ることができる。(→実物と知識をつなげられる。)

動物の骨格見本等モノ資料展示(博物館)×関連書籍特集(図書館)×映像特集(生涯学習センター)

例2 美術館の展示会場で、展示に関するコンサートを行うことで、絵画の時代背景、曲に対する想像力が働き、絵画や曲への理解が相乗的に深まる。(美術館×文化会館)

例3 例2と同様に博物館の内容とそれに関わる能演目との相乗効果で、豊かな体験ができる。



各施設の特徴、強みをもちより、同じ場所、共通の媒体（インターネットなど）で展開することで、より幅広い知識や体験が得られる。

機能連携(レファレンス) 知りたいことに答えられる。施設共通のデータベースが有効。

モノ資料(博物館)×書籍の紹介、解説等(図書館)×地図や記録などの歴史文献資料(公文書館)

※機能連携としては、調査研究、情報提供、コーディネーターなどの育成などが考えられる。

(主に県が設置する)個々の施設の機能強化のための連携の視点
個々の施設の機能強化にとっては、人員面や資金面以外に、外部との連携、交流が重要なポイントになると考えられます。

1 拠点で活動する県民との連携

拠点の活動に協力するボランティア等については、拠点を機能させるために必要な人材として共に拠点活動を進めます。

2 学校、教育委員会との連携

子どもが利用しやすく(施設の装備だけでなく企画等内容面をあわせて)魅力的な施設とすることが、求められています。

(例)

- ・学校の教育内容と連携した行事や展示その他の企画
- ・教育委員会(教員)との共同研究事業
- ・教員の派遣

3 市町、民間施設との連携

市町、民間施設と連携し、互いの充実強化をはかることが求められています。

(例)・協働した企画展を地域で行う。

- ・互いの収蔵資料の貸し借り
- ・定期的な情報交流の場づくり
- ・共通のデータベースづくり(例:収蔵資料、レファレンス事例など)
- ・人事交流
- ・共同研究

4 大学等の高等教育機関との連携

(例)・大学と連携した授業の場としての施設利用

- ・大学等の研究実践の場として施設を利用する取組
- ・共同研究
- ・企画立案の相談役としての大学

5 民間企業、団体等との連携

企画展や事業企画等にあたって、企業や関係する団体の理解や協力を得ることがより拠点活動の発展につながると考えられます。また、協働相手として、様々な企画立案を行っていくことが、拠点活動にとって重要になると考えられます。

6 各部(各施策)との連携

各拠点の特徴に応じて、各部のもつ施策を支援する視点、姿勢をもつことは、多様な地域への支援につながると考えられます。(伝統工芸への支援、歴史的資料の活用など。)

7 県外の施設や機関等との連携

県外の様々な施設や機関、団体との連携・交流の視点も重要です。

- ・共同展示、共同研究、共同事業の企画